



資料1-3-8

⑧ 国際協調の推進（案）

令和3年5月25日

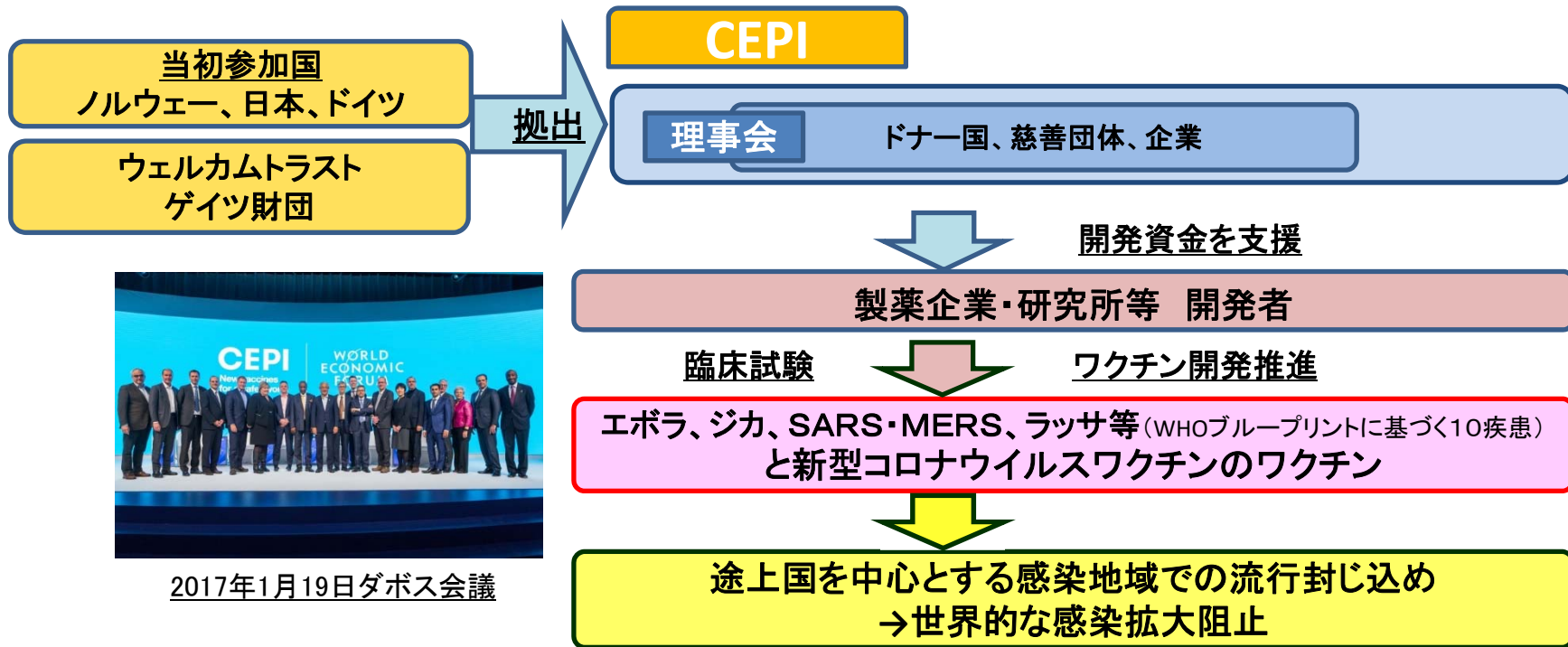
厚生労働省、外務省

感染症流行対策イノベーション連合

(CEPI: Coalition for Epidemic Preparedness Innovations)

CEPI

エボラ出血熱、MERS、ジカ熱に見られるように地球規模の感染症は今後も発生が予測され、エボラ危機が引き起こした深刻な事態を招くことがないよう、各国政府・国際機関・民間・市民社会が一丸として取り組む枠組みが必要とされることから、世界連携でワクチン開発を促進するため、2017年1月19日ダボス会議において正式発足した官民連携パートナーシップ。現在は、新型コロナウイルス感染症ワクチン開発も支援。



Gaviワクチンアライアンスの概要 (Gavi the Vaccine Alliance)



設立目的

低所得国の予防接種率を向上させることにより、子どもたちの命と人々の健康を守ることを目的として、2000年にスイスで設立された官民連携パートナーシップ。

活動内容

(1) 2021-2025 戦略目標: Gavi 5.0

- ① ワクチンの導入と規模拡大（支援対象疾患を13種類から18種類に拡大）
- ② 予防接種の公平性促進のための保健システム強化（**ワクチン未接種の子どもを減らすための取組の強化**）
- ③ 予防接種事業の持続可能性の改善（自己資金によるワクチン事業の促進支援）
- ④ ワクチン及び予防接種関連製品の市場形成（ワクチン価格の適正化、途上国ニーズの高いワクチン開発等）
 - NGO等の市民社会組織と連携し、支援が行き届きにくいコミュニティ等での予防接種活動を促進し、ワクチン未接種の子どもを削減する。
 - これまで支援対象としてきた**低所得国73か国**（一人あたりのGNIが1580ドル以下）に加え、2021年以降、中低所得国に対しても支援を行う。

(2) COVAXファシリティ事務局

- 途上国を含めた世界全体における**新型コロナワクチンへの公平なアクセスを確保するための国際的な枠組み**であるCOVAXファシリティの事務局として運営を担う。

(3) 特徴:官民パートナーシップ、革新的な資金調達、費用対効果の高い活動

- ドナーからの資金調達手段（拠出金）に加えて、ワクチン債（IFFIm）やワクチン事前買取制度（AMC）等の**革新的な資金調達手段**を通じて、長期に予測可能な資金源を確保。
- 設立以来、8億2200万人の子どもたちに予防接種を行い、1400万人の命を救った。一方、**事務局コストは全体予算の3%以下**と、非常に費用対効果の高い機関。
- 支援国73か国のうち、2020年までに16か国が自己資金での定期予防接種プログラム運営に成功。
- 支援国では、1ドルを予防接種に投資すると21ドル（広範な社会利益を含めると54ドル）のリター

COVAXファシリティ(COVID-19 Vaccine Global Access (COVAX) Facility)

背景

- 新型コロナワクチンへのニーズの高さから、開発を巡る国家間競争が過熱し、ワクチンが高価格になる可能性。
- 国家の経済力に関わらず、ワクチンへの平等なアクセスを確保できるようにすることが必要。

目的

- ACTアクセラレータの4つの柱(ワクチン、治療薬、診断、保健システム)の1つであるワクチンに関する実施戦略。
- Gavi主導の下、時限で立ち上げられた包括的な資金調達及び供給調整メカニズム。ワクチンの購入量と市場の需要の保証を通じ規模の経済を活かして交渉し、迅速かつ手ごろな価格でワクチンを供給する仕組み。
- まずはハイリスク群である保健医療関係者、高齢者等へのワクチン接種を目指す。

概要

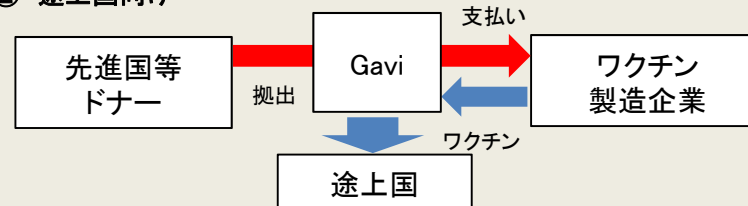
- ①先進国等向け、②途上国向けの2つの枠組みで構成。
- COVAXファシリティへの参加国・地域は191か国・地域
(①「先進国等向け枠組み」への参加合意書を提出した98か国・地域、②「途上国向け枠組み」の対象である低所得国の92か国・地域等)注。
- COVAXファシリティによるワクチン供給が2021年2月24日から開始。

注:2021年5月時点。米国は①「先進国等向け枠組み」には参加していないが、②「途上国向け枠組み」に拠出し、ドナー国として参加している。

① 先進国等向け



② 途上国向け



グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund)

2015(H27)年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)において、顧みられない熱帯病(NTDs)^{*}や結核、マラリア等の根絶等について明記されている。しかし、これら開発途上国を中心に蔓延する疾病の治療薬の研究開発は、先進国において需要が少ない等の理由から充分になされていない。このため、日本の製薬産業の優れた研究開発力を活かして、そうした開発途上国向けの医薬品研究開発を、ゲイツ財団等も含む官民連携で促進することにより、国際保健分野での貢献を行っている。

^{*} 顧みられない熱帯病(NTDs, Neglected Tropical Diseases): デング熱、リーシュマニア症、シャーガス病等20の疾患がWHOにより定められている。GHITは、そのうち一部の疾患を選定・研究開発支援の対象としている。(2019年7月時点で、11疾患)

